

# ミシマサイコを核とした複合経営モデルの開発

## 背景と課題

国内生産の拡大が望まれている薬用作物のミシマサイコは、中山間地域への導入による生産拡大が期待されていますが、新規導入作物のため作業性や経営面では不明な点が多く、普及に向けた課題となっています。

## 研究の目的

本県中山間地での栽培による経営特性や収益性を明らかにするとともに、既存品目と組み合わせた場合の、ミシマサイコが導入される所得水準について検証しました。

## 研究の内容および成果

ミシマサイコ栽培農家を対象として、作業体系別（手作業、機械利用）の作業内容・時間調査および、関係機関の聞き取り調査により組み合わせる既存有望品目を選定し、ミシマサイコが導入される所得水準について、パラメトリック線形計画法※を用いて検証を行いました。

※国開発の計算プログラム「XLP」を使用

### 1) 作業体系別費用

作業体系別（手作業、機械利用）の生産費用および労働時間を調査しました※（表1）。

※一部機械（摘心機、脱穀機、とうみ、根の掘取機）は無償借受体制がとられているため、機械の自己所有と無償借受別で細分類

生産費用では、合計費用に占める各区分の割合で見ると、施設・機械費が修繕費を加えると61～87%と最も大きな割合を占め、収益性の向上には施設・機械費の低減が重要であることが確認されました。一方、機械の無償借受により、作業体系を問わず10%以上のコストが低減されるため、機械の共同利用は有効な手段であることが認められました。

経営条件

表1 作業体系別生産費用および労働時間（左：手作業，右：機械利用）

栽培体系	2年栽培, 機械利用	手作業				機械利用					
		機械自己所有		機械無償借受		機械自己所有		機械無償借受			
		区分	金額(円)	割合(%)	金額(円)	割合(%)	金額(円)	割合(%)	金額(円)	割合(%)	
耕地面積	30a, 50a, 70a	種苗・肥料・農薬費等	38,440	19.6%	38,440	28.3%	種苗・肥料・農薬費等	35,208	8.8%	35,208	15.4%
労働力	家族労働2名 1人200h/月	生産資材費	10,085	5.1%	10,085	7.4%	生産資材費	8,502	2.1%	8,502	3.7%
所得範囲	0～50万円/年	動力光熱水費	4,120	2.1%	4,120	3.0%	動力光熱水費	7,900	2.0%	7,900	3.5%
		施設・機械費	125,200	63.8%	72,400	53.2%	施設・機械費	305,900	76.2%	154,500	67.6%
		修繕費(2%)	18,400	9.4%	11,000	8.1%	修繕費(2%)	43,700	10.9%	22,500	9.8%
		合計	196,245		136,045		合計	401,210		228,610	
		(労働時間)			(1,402時間)		(労働時間)			(511時間)	

### 2) 既存有望品目との組み合わせによる検証

産地の既存品目から8品目（ピーマン、ナノハナ、エンドウ、ハウレンソウ、インゲン、フキ、タラノメ、ソバ）を選定し、これらとの組み合わせによるミシマサイコ導入所得水準（所得）を検証した結果、年間で10aあたり約32～40万円の所得水準が確保できれば、ミシマサイコが栽培品目として採択されることが明らかとなりました（図1）。

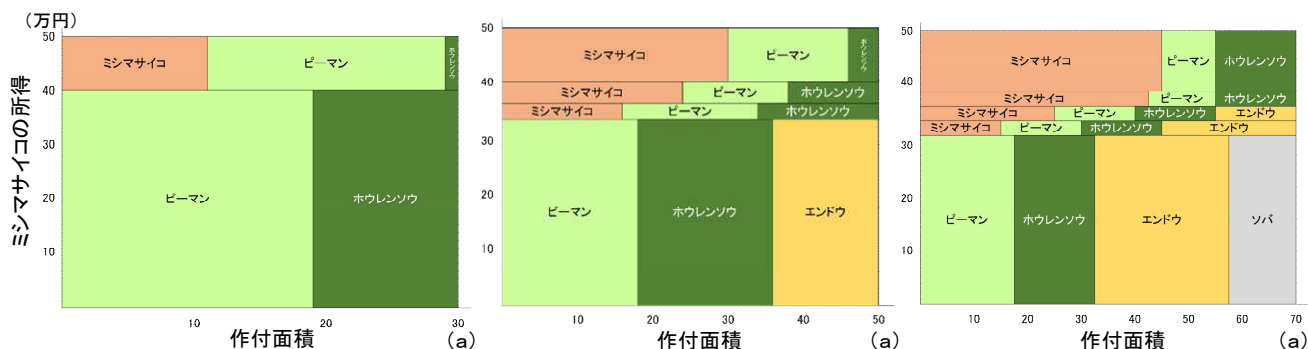


図1 複合経営モデル（左から30a, 50a, 70a）

問合せ先 徳島県立農林水産総合技術支援センター  
経営研究課  
電話：088-674-1658